

常なる磐

つねなる いわ season II

令和 4年 1月21日(金)

その2

◇ 学校【沿革史】を紐解いて④ 校章と小学区

<新聞記事 昭和44年11月25日「中日新聞」朝刊>:【沿革史 第2集】とじ込み記録 より

沿革史に【校章】の資料が綴じられている。
資料は53年前のもの。昭和44年の中日新聞の新聞記事である。

おそらくシリーズ化された特集で常磐東小学校が取り上げられたものだと思う。

新聞記事の内容は、以下のとおり。

豆百貨 マーク

常磐東小(岡崎市安戸町日向・柴田信一〔第14代〕校長)

明治二十五年に福田尋常小として発足し、昭和六年常磐尋常高等小の分教場、同十年に常磐東小となった歴史から、常磐東小として出発したころに制定されたい。

マークは常緑の松に囲まれ、いつまでも変わることはないときわ(常磐)のたたずまいを表すために、松葉を二本菱(ひし)形に組み合わせ、中に「東」を配している。

すっきりとしていて美しい。

いわれの通り学校は岡崎市の北東の町はずれ、青木川に沿った山のふもとにあり、自然環境には恵まれている。一方、通学には大変だが、児童たちは「困難に負けず、常に元気で伸び伸びと学び、遊ぼう」とたくましく育っている。

昭和44年11月25日 中日新聞 朝刊

記録に関わる〔校長所見〕も右に紹介する。

校長の記録が昭和41年、新聞記事が昭和44年。いずれも第14代校長の柴田信一先生の在任中だ。

新聞記事の内容は、ほぼ校長記録と同じなので、校長の記録をもとに記事が作成されたようだ。

柴田校長が沿革史に記録を残すのに際し、遡って沿革史で確認していることに感服。加えて「とわ」=永遠、と(き)わの解釈。博学に、また感服。

※校長室の歴代校長写真の額装を整えていた際、写真の台紙裏に厚さ調整の昭和40年初頭の新聞紙を発見。柴田校長が整えていたことが分かった。



<校章の沿革について>

沿革史に記録がないので、詳細に知ることが出来ないが、学校の沿革を見ると、明治25年、福田尋常小として発足し、明治6年には常磐尋常高等小学校の分教場となり、昭和10年11月に常磐東小学校設立認可、東分教場廃止と記されていることから、それにより推察すると、この設立認可のあった年に校章も同時に定められたものであろう。

<校章のいわれ>

ときわ(常磐)即ち常緑の松に囲まれたとわに変わることはない東の学校を現すために、松葉二本を菱形に組み、その中に東の地を配したものであろう。

<備考>

勿論、緑に囲まれた清純な学び舎ということも含まれているものであろうし、とわに変わらず、元気に生き生きと伸びてほしいということも含まれているものであろう。

昭41.10.30記

※原文のまま

※筆跡から、第14代校長 柴田信一先生が(在任:昭和40年4月~45年3月)記した記録であると推察される。

校長記録の裏面に「学校沿革の概要」が掲載されていたので、一部を抜粋して紹介。

- 明治34年4月** 米山、大柳、福田三校を合併し、鼎(かなえ)尋常小学校を開設。
学区は、大柳、安戸、蔵次、新居、小丸、米河内。
初代校長 佐々木清次郎
- 大正3年2月** 米河内を学区より分離する。

校舎移築とあるが、校地は安戸町の旧校地で、同敷地内移築である。校舎の新築と解釈してもよいのではないだろうか。
- 昭和6年5月 常磐尋常小学校の東分教場となる。
- 昭和11年11月 校舎移築完了
- 昭和11年12月 東分教場を廃止し、常磐東小学校設置
- 昭和16年4月 国民学校令施行 校名変更 額田郡常磐村常磐東国民学校
- 昭和22年4月 新学制実施 常磐村立常磐東小学校と改称
- 昭和23年3月 電話設置さる
- 昭和28年9月 給食室改造工事を行い、完全給食(C型)を実施する。
- 昭和30年2月 町村合併により、岡崎市常磐東小学校と称する。
- 昭和33年9月 完全給食(A型)を実施する。
- 昭和35年9月 学校用テレビを購入する。
- 昭和37年6月 電気冷蔵庫購入

- 昭和39年3月 校歌の碑(石製)建立

校歴を紐解いていく中で分かったことがある。

驚くべきは、**明治34年**と**大正3年**の記録。つまり、121年前に「鼎(かなえ)尋常小学校」として開校した際は、学区に「米河内」が含まれ【大柳、安戸、蔵次、新居、小丸、米河内】、大正3年に「米河内」が学区から分離するまでの13年弱の期間は、校区は現在と同じ【六町】であったことだ。

その後73年の年月を経て、常磐東小の米河内地内への移転新築とともに、昭和62年4月、学区が六町に復活するのである。

大正3年の「米河内」分離の時期が、年度替わりではない2月である。

調べると、常磐尋常小学校(現在の常磐小)が同年に校舎を移築新築しており、新校舎の使用と並行して学区変更を行い、常磐尋常小学校が米河内を学区に組み入れたことが分かった。児童の増加や通学等、当時の「児童ファースト対応」が汲み取れる。

<おまけ>

給食の「A型」と「C型」の違いを調べたが、ネットで全くヒットしない。分かったことは、「完全給食」=【牛乳を必ず含む給食】ということらしい。この「牛乳必須」の法的整備が昭和33年であり、牛乳を含む給食を「A型」、含まないものが「C型」なのかもしれないが、あくまでも予想の範疇。ただし、「完全給食」は昭和33年からの実施であり、昭和28年の「完全」は不適切のようだ。因みに、昭和33年ごろは、まだ「脱脂粉乳」が主流だった模様。